

会 議 録（要約版）

会議の名称	令和2年度 第1回 益城町行政改革推進委員会
開催日時	令和2年10月29日（木） 午前9時から午前10時40分まで
開催場所	益城町役場仮設庁舎2階 応接室
出席者	西村町長 稲田忠則委員、井田貴志委員、小葉武史委員、橋場紀仁委員 戸塚誠司委員、藤岡卓雄委員、西橋幸子委員、中村 哲委員 事務局：山内企画財政課長、中村行政改革係長、中桐行政改革係参事
議事	(1) 委員会の公開及び会議録の公表について (2) 次期（第5次）益城町行政改革大綱策定方針について (3) 行政改革大綱策定スケジュールについて (4) 委員自由討議
会議資料の名称及び内容	○会次第 ○益城町行政改革推進委員会委員名簿 ○益城町行政改革推進委員会設置条例設置条例 ○益城町審議会等の会議及び会議録の公開に関する実施基準 ○次期（第5次）益城町行政改革大綱策定方針 ○行政改革大綱策定スケジュール
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言書の発言内容の要約 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>2 委嘱状交付 代表して稲田委員に交付</p> <p>3 町長挨拶</p> <p>4 委員等自己紹介</p> <p>5 益城町行政改革推進委員会設置条例について</p> <p>6 会長選出 井田委員を会長に選出 職務代理者として、稲田委員を指名</p> <p>7 諮問 町長から井田会長へ諮問</p> <p>8 議事</p> <p>(1) 委員会の公開及び会議録の公表について 《事務局から資料に基づいて説明》 《委員賛同》</p> <p>(2) 次期（第5次）益城町行政改革大綱策定方針について</p> <p>(3) 行政改革大綱策定スケジュールについて 《事務局から議事（2）（3）について、資料に基づき説明》</p>	

(委員) 将来的には2040年問題もあるが、実際その前に団塊世代の後期高齢者問題もありますので、そのことについても言及した方が良いのではないかと。

(事務局) 団塊の世代の後期高齢者問題は、特に社会保障費と労働力に直結した問題です。おそらく労働力につきましては、定年が延びていくことが予想されますが、当然その辺も含めて検討していきたいと思っております。

(委員) 大綱策定には、人口と税収等の予想の現状の把握というのが大変重要だと思います。このあたりは本当にシビアにやっていただいて、それに基づいた計画を立てなければいけないと思っております。

(事務局) 本町の人口は震災前は34,000人程でしたが、社人研では最終的には28,000人程度まで減少すると数字が出されています。しかし、本町の人口ビジョンやまち・ひと・しごと創生総合戦略では何とか今の人口を維持したい、あるいはそれより上回る数字を出したいと各計画では明記してありますが、その辺はシビアに考えなければいけないと思っております。今、PTが作成している基本方針につきましては、人口の推移、財政状況、復旧・復興事業等の数字を入れながら策定しておりますので、その中でお示しができるのかなと思っております。

(委員) 行革を進めるうえでは、改革を進める強い意識は必要だとは思いますが、福祉の面から見ると、いろんな方々に配慮した部分は必要だと思っております。災害弱者、生活弱者等に配慮した改革の進め方という視点も取り入れながらやっていただきたいと思っております。

(事務局) 行革には確かに、急いで行わなければならない改革とじっくり行っていかなければならない改革という2つの面があると思っております。それで、先ほど大綱策定より先に取り組むケースもありますと申し上げたところです。福祉につきましては非常に難しいところがあります。これにつきましてはどこまで行革大綱でできるかというのは今のところ申し上げることはできませんが、PTの中でも検討していきたいと考えております。

(委員) 1つは、策定方針の中のスマート自治体も考えていかなければいけない事項だと思っております。すでにAI等を導入している自治体もありますから、熊本県内ばかりではなく県外の自治体等の先進事例等の情報を収集してほしい。特にプロジェクトチームの1つの大きな活動として、情報収集を行い益城仕様に直して素案を作る作業というのがあると思っております。

もう1つは、まちづくり協議会が各校区にございます。まちづくり協議会を重要視して、組織化を図り、それを活用し意見をいただくということも非常に大事なので、計画の中に入れていただければと思っております。

(事務局) 確かに情報収集というのは、重要なことだと思っております。また、まちづくり協議会のご提案は、重点目標の4多様な主体が活躍する協働のまちづくりの推進の中の1つの大きな柱になると思っております。いただいた意見につきましては、PTの中で検

討を行いたいと思います。

(委員) 震災からの復興というの一番大事だと思いますが、今後予想される災害、あるいは想定外だと思っている災害に対しても、町として、何か踏み込んだところで計画に入れるべきだと思います。それからデジタル化ですけれども、私も含めて歳をとってくると機械にとっても疎くなる方もおられますので、特段の配慮というのにも触れていただきたいと思います。

(事務局) 確かに災害については、いつ何が起きるかわからないという状況ですので、「備え」しかないと思っております。また、デジタル化につきましては、高齢者の方を含め全ての方がスマホ等を持っているかというところではありませんので、町としては、役場だけで良いのか、あるいは支所を設置すべきとか、住民ファーストの観点から考えなければいけないと思っております。

(委員) 行政改革ということで職員さんたちが大きくかかわってくるということで、職員とのコミュニケーション、このプロセスを丁寧にとっていただけたと思います。どれだけ小さな仕事や、無駄な仕事であっても、やっぱり皆さんご自身がやられている仕事をいらないよとかやり方を変えた方がいいよと言われると皆さん抵抗されて結果的に進まないケースも考えられます。どちらかと言うと、どんな業務であっても今やられている業務に対してまず肯定をしながら、ただこういうふうなところで次の段階に変えていきたいんだということが大事かなと思っております。プロジェクトチームだけではなく、プロパー職員二百数十名おられる皆さんとのコミュニケーションを丁寧に時間をとっていただきながらやっていった方がいいのかなと思います。

あと重点目標の2の機能的柔軟な組織づくり、人的資源の最適化のところ、是非業務のオープン化というところを一つのキーワードとして大事にしていきたいと思えます。

(事務局) PT以外の職員からの意見の吸い上げは大事ですし、当然、行革大綱を実施するには職員の協力と理解が必要です。自らの仕事の改革となりますので、それも含めて何らかのアクションは起こさなければいけないと思っております。その辺はPT等も含めて考えていきたいと思えます。情報のオープン化につきましては、どれだけ町が情報を持っているかは別問題でございますけれども、確かに震災の時には情報をオープン化してそれに基づいて復興計画を作ったというのがございますので、できればオープン化も含めて考えていきたいと思えます。

(委員) 策定方針の中で、人口減少と財政の健全化、それと関連しまして重点目標の財政基盤の強化と自主財源の確保ということは重要です。この人口減少というのは先ほども話がありましたように地震後益城町も千何百人程度減少しております。そういう中で、民間の皆さんの力によりまして住宅地もできておりますし、結構新しい住民の方も来ておられます。そういう中で、人口減少につきましては、先ほど町長も言われましたとおり、住みたい町「第7位」と言われましたが、これにつきましては、良い傾向でご

ざいまして、やはり益城町が地震から創造的復興という形の中で、県道の4車線化、木山の区画整理、それから町が計画しておりますにぎわいのまちづくりこういう魅力を実現しながらやっていけば、町外からたくさん益城町に来ていただき、町の人口も徐々に増加するのではないかと思います。それから、議会の議員さん方も常々言われていますが、自主財源の確保につきましては戸建の家が増加すれば、税収が伸びますし、西地区・中地区の区画整理が進んでいけば、良い方向に向かっていくと思っています。あとデジタル化ですが、専門分野の職員の確保が、一番大事だと思います。それと、セキュリティも大事になってくると思いますので、今後そのような観点で議論して大綱が策定できるなと思います。

(事務局) 確かに人口の増加策というのは重要な策だと思っています。行革の中にも自主財源の確保ということになれば当然入ってくる重要な分野だと思います。デジタル化につきましては、その専門職員がいないと活用できませんので、人事や職員採用も含めながら検討していきたいと思っています。

(委員) 先ほどの人材育成ということで今回の大綱策定の体制というのは関係してくると思いますが、PT員23名ということですが、この23名の中に公募の方というのは何人おられますか。どちらかというと、公募で情熱を持っておられる方もいるというのは非常に喜ばしいことだと思います。それと、策定が令和3年までということですから、途中異動があると思いますが、異動後PTの人たちは、変わる可能性があるのですか。

(事務局) 公募は約半数で、PT員は異動があってもそのまま継続となります。

(委員) メンバーの中に年齢層、職制のバランスはどうかはちょっと気になったところですが、専門分野というのはなかなか厳しいかもしれませんが、保健とか福祉とか、あと建設関係とか情報に堪能な人とか職歴が長い人とかおられると思いますので、そういった人たちの分野のバランスを考えたらうえてPTを作っていたいただきたいということと、今、PT員23名ですけれどその辺の分野が不足しているということであれば、適宜追加するなりしていただければと思いますので、その辺の質問も含めたところで確認させていただきます。また、PTの仕事というのは本来の仕事とかぶることになりますから、勤務時間中の仕事とかプライベートな時間も含めたところで、厳しいことがあると思いますが、職員さんに今後の益城町を背負っていくという気持ちを持って頑張っていたいただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

(事務局) PTは係長職以下で構成をし、係長職は5名で、それ以外は30歳以下の若手職員です。職種も技術職から事務職までいます。また、プロジェクトチームは、職員研修の一環と考えています。職員がチームの中で意見を叩き合うということで、職員の人事育成の1つを担っています。

(委員) PTの件ですけど、せっかく皆さんお集まりなので、目線を広くというか、皆さん普段業務をやられている中なので、自由な意見が出てくると普段の業務にも活かさ

れてくるのだろなと思いますので、皆さん楽しくやっていただけたらいいなと思います。

(事務局) 通常の業務を持ちながらPTの仕事もということですから、PTは大変だと思いますが、その辺につきましては町長から各課長に対してPTに対する配慮をするように強く指示がっております。あと情報収集については、これから大綱を作っていくうえでは重要ですので、事務局としても情報があればPTに流していきたいと思ひますし、委員の皆様方も何か情報があればよろしくお願ひします。

(会長) 大綱の期間ですけれども、これは総合計画とずれていますので、総合計画の期間に合わせるということはできますか。今回を5年とせず、次の総合計画の後期が始まる前までの期間としてはどうですか。総合計画にはデジタル化をそれほど強くは謳ってないと思ひますので。補助事業を申請する場合、総合計画に謳われてないと厳しんじゃないかなという気がしますので、総合計画と合わせた方がいいんじゃないかと思ひますが。短い期間で終わるのを前期とし、長い時間かかるのを後期とする方法もあると思ひますので。

(事務局) 総合計画は、行革大綱より先に策定されていますので確かに期間がずれています。期間については、検討をさせていただきたいと思ひます。

(4) 委員自由討議

(委員) 自由討論ということで、今コロナ禍の中で大学においても改革を無理やり行わなければならない状況におかれたわけです。昔から働き方改革とか、仕事と家庭の両立とかいろいろ言われていますが、むしろ強制的に家に居なさいという状況に追い込まれて、大学側としても無理やりに改革をさせられた状態になっています。そのような中で1つの案としては、職員の方々の改善する意思というのをうまく引き出すようなシステムがあるといいかなと思ひます。最初やらされていた時は無理やりだったけれども、実は考えてみるとこれで良かったのではないかと思ひたこともあったのではないかと思ひます。職員の中で頑張っている人、業務を効率的にやられている方を紹介するようなことを行ったら良いと思ひます。

(会長) ペーパーレスにつきましては、私の学部も数年前から紙は配りません。パソコンを持ってきて、見ながら会議をやっています。紙の使用量は激減しました。できることはいっぱいあると思ひますので、ひとつひとつやっていけば徐々に職員もその流れに追従してくるのではないかなという気がします。

(委員) 職員のコロナ禍の中での仕事をみてもみると、やっぱり会議は対面でされているし、そこは我々と違うなと思ひているわけですが、しかし外との会議はスマホ等を活用するなど、最初から本丸に向かうのではなく徐々にという考え方も必要だと思ひます。

(委員) 今回の行革推進委員会の進め方ですけれども、町政の現状とか問題点、今後の

課題、町民意向調査の結果などが何らかの情報資料を提供していただくものがあれば、我々がこの会議に来る前に考えることができると思います。それとPTでいろいろ議論される時に、PTの議論とか論点がなんだったかということをお我々に伝えてもらえれば、どういったところに職員の方々が着目しているとか、それが分かれば我々の方もそれに対する意見とか言いやすく絞りやすくなると思いますのでご検討をお願いします。

(委員) 行政としての改革大綱ですので、そう簡単なものではないと思いますが、改革をしなければならない目的をもう少しクリアに見えた方がわかりやすい気はします。例えば、企業であれば、業績が落ちたのでそれを上げるのだと。その時に皆さんのモチベーションとか働きやすさというところをもちろん加味はするんですけどもここは耐えてくれと。何とか戻さなければいけないんだと。だから改革をするんだという言い方をするんですね。そうすると痛みを伴うのでなかなか行政の中では言いにくいということで、ちょっと総花的に成らざるを得ないところは私もあると思いますが、ただ例えばPTの議論の中であったり、職員の中での議論であったりする時は、これが議論の目的だ、これを達成するために何をやっていこうか等、そういった形で話ができるると特にクリアになると思います。

(会長) 今回の目標にスマート自治体とありますので、本委員会として組織改革に踏込むかどうかということと、次回の会議には4つの重点目標に対して具体的にどういった目的で、その目的に対して具体的に何をするのか、それによってどういった効果が生まれるのか、あと担当課ですね、そういった一覧表等が次会議に出てこないとおそらく時間的に厳しいと思いますので、次回議論する場合はそういった段取りで準備していただきたいと思います。

(事務局) 組織については、どこの課をなくすとかいう形までは本委員会では議論の対象には、入っていません。あくまでも具体的な組織改革については、町長部局の方で考えることとなります。ただし、本委員会から提言はできると思います。こういう形も組織づくりの考え方だろうという提言の形でいただいても構わないと思っております。

(会長) 今日の資料に一点足りないと思うのが、官民の役割分担をどうするのか。従来どおり、役場が行うのではなくて、例えばデジタル化というのは、はるかに民間の方が進んでいるので、民間の効率的な作業工程を含めて、官民の役割分担を考えていく視点も必要だと思いますのでよろしくをお願いします。

(会長) 事務局は、本日いただいた各委員の意見を参考にして、行革大綱の策定を進めてください。

9 閉会